

九州集会 / 第1分科会 /

地域の協同がつくる コミュニティ・ケア

宮村貴幸

(喫茶レストラン「PIKO・POKO」)

はじめまして 北九州市小倉北区片野新町
でコミュニティ重視の喫茶・レストラン

「PIKO・POKO(ピコ・ポコ)」(子ども
の遊べるプレイスペースを併設)を運営
しています宮村と申します。私が今、してい
る活動と、この店を持つと思った経緯に
ついてご報告させていただきたいと思いま
す。

私がこの店を持つとしたきっかけは、3
年前に子どもが生まれたことから始まりま
す。

私たちは7年前に社内結婚をし、結婚後も
共働きで、妻は出産 ぎりぎりまで働いてい
ました。私はホテルマンとして通算15年間
働き、最終的には料飲部・サービス課の副
係長の役職になっていました。

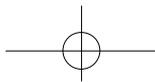
当時、ホテル内にもリストラの波が押し寄
せており、私は毎晩少人数の仲間と遅く
まで働き、妻もまた、育児休暇などない小規
模の事務所で懸命に仕事をこなしていま
した。そんな状況でも「出産」という初めての
体験に少しわくわくしながら、私たちは産婦
人科選り始め、その中なら「きれいで評判
のいい」と言われる産婦人科を選び、そして
無事、出産日の日を迎えたのです。が、噂と
はうらはらで、当日、担当の先生は休暇を
とっており別の病院の先生に急に代わった

り、急患がいたため立会いも断られてしまっ
たのです。本人達には生涯の一大事件が病院
側の都合により、軽視されるのだと思い知ら
されたのです。このことにより、情報の収集
と情報の重大さを感じその後、育児グルー
プ・子育てネットワークと出会いながら、育
児とは奥が深く、子どもを中心に行政・専門
家・地域・親がつながり、子どもと一緒に親
自身が育つてゆく環境が必要だということが
わかってきたのです。

ある時、勉強する中で、専門家の方から「福
岡で一番幼児虐待の多いのは私の住んでい
る地区だ」と聞かされびっくりしました。私
の子どもにとっては故郷になり得る場所が
そんなところだなんて、とてもやりきれな
い気持ちになりました。が、いままで地域と
のかかわりもなく、どんな人がすんでいる
のかも知りません。どういう人がいて地域が
成り立っているのか考えた時ふと、みんな
をつなげる拠点が必要だ と思ったのです。

子どもが生まれたのをきっかけに、少し
ずつサラリーマンの働きかたに疑問を持ち
始めていた時期でもあり、「独立して飲食店
がしたいという夢」と「地域でコミュニ
ティ・ボランティアをしたいという夢」。自
分の中でこの二つがつながり「地域の方や
パパ・ママ、みんなが気軽に立ち寄り、情報
交換もできるレストラン」。をつくりたい。
私は福祉の専門家でもない知識もないが、
人と人をつなげることは出来る。今の私に
出来るのはこれしかないと思いました。

妻以外の親戚や友人・起業の専門家から
は、「経営が成り立つはずがない」とほとん
ど反対されましたが、夢を実現させたい一
心でみんなを説得し、銀行からの融資にも



奔走してよいよ開店にこぎつけ、子どものプレイスペースを併設した喫茶・レストラン「PIKO・POKO」は2002年11月9日オープンの運びとなりました。

現在PIKO・POKOは、喫茶・レストランだけでなく定期的にイベント（毎週火曜日フリースペース（親子の居場所づくり）・第3日曜日フリーマーケット・第4土曜日地域の日）や、親育ち講座・季節のイベント等を開催し、地域との交流を広げています。

このような形態の店は珍しく皆から喜ばれている反面、座席数や回転の問題等があり、経営的には効率が悪いのです。サービス面は今までの経験上自信がありますが、今はまだ思うように売上にはつながらず不安ばかりです。

妻は別の会社に勤めながら、ボランティアで店の経営にも関わってくれています。しかし幸か不幸かずっと経理畑でやってきた妻は、売上に関して私よりはるかにシビアで正直に言うとケンカになることもしょっちゅうです。

実際、今は妻の収入で生活しているといっても過言ではなく、サラリーマン時代より休日も少なくなりました。夜間は夫婦二人とも店にいるので、お客さんがいるときは子どもにかまうことができず、子どもに負担をかけているなど心を痛めるときもあります。

でも、ふだんは両親がともに近くにいてあげられることが多く、息子にはけっこういい環境だと思っており、また私にとって、常に子どもの成長が見られるのはこの上ない喜びでもあります。育児をしたいができない環境・社会にいるお父さんたちがたくさ

んいることを考えれば、私はとても恵まれていると思います。

子連れのお母さん方には「このようなお店をつくっていただけてありがとう」「久しぶりにゆっくり出来た」と御礼をいわれることもあります。経営は確かに厳く、こういう励ましが今の私にとっては何よりの支えになっています。今からの目標はたくさんあり、子育て支援だけにとらわれず、協同できるすべてのもの、大きな地域に目を向け進んで行きたいと思います。誰かに必要とされている以上、1日でも長く続けたいと思っています。

そしてこのような営利だけにとらわれない店、企業がどんどん増えて、お父さん・お母さんたち・みんなが安心して働き、地域活動が出来る環境や社会になっていくこと、また21世紀を担う私たちの子どもが安心して生活できる地域関係ができ、経済的価値だけでなく社会的価値を見出せる時代が来ることを願っています。

